

がんばろう 南三陸町

復興第81号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

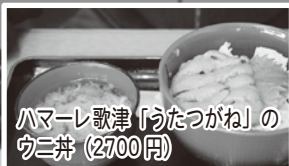
千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068

企画・編集

志津川広報センター

南三陸町歌津の「田東山つつじ祭り」「しろお祭り」盛況御礼!

ハマーレ歌津の
商店街でお待ちしてます!高い河川堤防が整備され、
川幅が広がった伊里前川

ピチピチのしろうお

南三陸町歌津の大自然と海の幸をご体感下さい

南三陸町の小中学校児童生徒数

(2019年4月1日現在)

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全校
志津川	23	26	23	28	30	42	172
戸 倉	9	8	13	8	8	6	52
入 谷	11	9	8	11	12	16	67
伊里前	17	19	32	19	17	25	129
名 足	11	8	6	10	9	9	53
計	71	70	82	76	76	98	473

	1 年	2 年	3 年	全校		志高 1 年
志津川	75	65	68	208	情報ビ	17
歌 津	25	38	38	101	普 通	55
計	100	103	106	309	計	72

ラムサール認定の志津川湾

田東山つつじ祭り、山頂の東屋でのんびりと太平洋を眺めつつじの間の散歩コースなど一時の癒しです。



リアス海岸を眺望



つつじの散歩道

◁「たつがね湖」の払川ダム
・雄大な歌津地区の名所です。1本の大きな株、
素晴らしい枝ぶり。

手島郁郎の記録

手島郁郎の半生を描くドキュメンタリー

敗戦後の1948年、熊本で米占領軍軍政官に抵抗して追われ、逃げ込んだ阿蘇山中で神より召命の黙示を受けて、伝道に立つ。聖書を信じ、聖書のままに生きた手島郁郎の奇しき事跡を描く。

《日時》 令和元年 6月 22日(土)
13:00 開場(13:30 開演)

《会場》 南三陸町バイサイドアリーナ 文化交流ホール



入場無料

(千葉印刷代表 受皿支援)

未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成30年(2018年)

～地元報道より～

12月の出来事

南三陸町

◆再建された南三陸町役場本庁舎と歌津総合支所・歌津公民館が、地元木材を使った開放的な空間や住民が気軽に集まれるスペースを設けている点などが評価され、ウッドデザイン賞奨励賞とグッドデザイン賞を受賞した。

◆南三陸町入谷鏡石地内の国道398号で町内に住む志津川高校の女子生徒(18)が、原動機付自転車で行き中に転倒し、意識不明の重体となっている。事故当時、路面は凍結していた可能性があったという。

◆2日午後5時ころ南三陸町戸倉街道方地内の山道でクマ1頭、3日午後3時ころには歌津皿貝地内の三陸道IC付近で道路脇にいるクマ1頭を目撃したとの通報が南三陸町署にあった。

◆2日バイサイドアリーナで南三陸町の「子どもたちの郷土芸能発表会」が開かれた。町内で活動する芸能5団体、約100人が出演した。

◆3日南三陸町は、新たに女性2人を地域おこし協力隊に任命した。任期は1年で3年まで更新できる。

◆返礼品をリニューアルした11月以降、南三陸町へのふるさと納税が増加している。リニューアルした11月の寄付は183件・435万円で前年同期と比べて件数は8割、金額は1割増加となった。

◆南三陸地域では翁倉山が古くからイヌワシの繁殖地として知られ、2015年には「南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト」を発足。8日には町役場で、住民ら約50人を対象にしたセミナーを開き、取り組みの概要を説明した。

◆11日町役場で、南三陸町環境審議会が開かれ、家庭ごみ有料化の導入について町が示した方針通り2019年10月から実施する考えを支持した。有料化実施の可否について、委員からは異論はなく来年10月が妥当だとする考えで一致した。

◆南三陸町立志津川小学校の6年生が12日、町役場の交流スペース「マチドマ」で「南三陸町のまちづくり」をテーマに福祉や防災など自分たちの町が抱える課題を解決するためアイデアなどを伝えた。44人の児童が8分野に分れプレゼン形式で発表した。

◆総合学習で防災を学んでいる南三陸町名足小学校の4年生が、東日本大震災で津波が到達した区域、過去に地域を襲った災害などを南三陸消防署歌津出張所の署員と一緒に学区内を歩いて調査し、「命を守る防災マップ」を作った。

◆昨年オープンしたアップルタウン南三陸ショッピングセンター(南三陸町志津川天王前)敷地内に19日、復興を願ってサクラ・モミジなど61本が植樹された。

◆南三陸町の公務員に冬のボーナスが支給され、特別職・一般職・議会合わせて1億5239万円。人事院勧告に基づき、昨年より0.045カ月分上がった。

◆南三陸町の特産のタコをテーマに、子供たちが理解を深めるイベントが、入谷公民館で15日開かれた。一般社団法人COMMONSが「こども社会体験クラブ」の一環として開催したも

ので、小中学生が参加した。しづがわ民話の会の仲松敏子さんも民話を4作紹介した。

◆南三陸町内で運行する公共交通の在り方を定めた「町地域公共交通網形成計画」を策定する。課題には、最寄りのバス停まで遠い高齢者や、通学、通院などで日常的に乗合バスを利用するニーズへの対応、利用が少ない路線での効率化に向けた検討などが挙げられている。

◆23日南三陸ハマーレ歌津で、歌津あわび祭りが開かれた。「天皇誕生日」に合わせて東日本大震災震災後に始まって6回目。午前9時から整理券を配布し、早い人は午前5時ごろから待つという人気で、400箱が完売した。

◆南三陸町のサケ人工ふ化放流事業で、先月から海産親魚を使って行なわれていた採卵作業が24日終了した。確保したのは、これまでで最も少ない101万粒にとどまった。河川への放流は、1月下旬を予定している。

◆25日志津川東復興住宅第2集会所で、南三陸町で資源循環の実証実験に取り組んだ。アマタや地元事業所などによる住民向けの成果報告会が開かれた。アンケートでは、可燃ごみの量が減ったと答えた人が多かった一方で、「場所が遠い」「分別の仕方が分かりづらい」などの課題もでてきた。

◆南三陸町・女川町はトヨタ自動車などと協力し、町内観光スポットの回遊や通院、買い物に電気自動車を活用した実証実験に取り組むことになった。町民の日常的な移動手段の一つとしての活用を検討している。

◆南三陸町の志津川仮設魚市場で29日、志津川湾おすばでまつり福興市が開かれた。町内外から33店舗が出店。熱々のカキ汁や手打ちそばがふるまわれ、来場者の体を温めた。



4月8日志津川小学校の平成31年度入学式が開催され、23人(男10人・女13人)の元気な新一年生が入学し、初めての行事にのぞんだ。震災の2年目に生れた児童にあたる。

今年度就任した工藤吉則校長のあいさつでは、「入学おめでとうございます」と新入生に語りかけた。そして「ありがとうございます」と新入生と一緒に感謝の言葉を父母に送った。新入生への「3つのお願い」では、1. あいさつや返事をしっかりしましょう。2. 自分の事は自分でしましょう。3. 友だちとなかよく勉強したり遊んだりしましょう。と伝えた。早く学校になれるように、「がんばって下さいネ。」と話した。



祝辞は、町長の代読で最知副町長が立ち「心まちにしていた入学、ピカピカの一年生、少しドキドキしていませんか」と語りかけた。入学生へのお願いでは①先生の話をよくきく事。②学校のきまりを守る事。③友だちと仲良くすることと伝えた。ご父母には「南三陸町、この国の宝です。大切に育てていただきたい」と締めくくった。

歓迎の言葉では、在校生を代表して高橋さんが「志津川小学校はとても楽しい学校です。運動会や学芸会を楽しみにしてください。」と話した。



4月8日志津川中学校体育館にて、志津川地区の入谷・戸倉・志津川の小学校から75名(25名3クラス)の新入学生を迎えた。壇上に整列した新入生は一人ひとり名前が呼ばれ、緊張感いっぱい入学式に臨んだ。

三浦校長の式辞では、「志中生として入学式に臨んで気持ちはどうでしょう。大きな期待を持っていると思います。」と語りかけた。生徒帳も配布され「自分で考え行動するのが中学生であり、中学校は大人になるための学校で、地域に尊敬・信頼され愛される人間に、創造的な教育活動を目指していく」と述べた。

祝辞では、佐藤町長が「平成の元号で最後の入学式となる。」と話し、「友だちの輪を広げ勉強・運動に取り組んで欲しい。」「共に支え合いながら、一日一日を有意義に」と言葉を送った。

PTAの山内会長は「夢と希望に満ち溢れ、いろいろな

事に挑戦してほしい」と語った。

歓迎の言葉では、在校生を代表して三浦和佳子さんが「笑顔あふれる中学校生活に」「部活動は一生の思い出になります。」「共に高め合いながら頑張っていきましょう」と新入生に話した。誓いの言葉では新入生を代表して、千葉倫佳さんが「たくさんの事を学び、将来の事を考えたい」「楽しみにしている部活動」「思いやりを持って中学校生活を送りたい」と答えた。



南三陸町人口の推移

(平成31年4月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
30年3月	13,141	5,374	1,428	2,006	4,333
31年4月	12,792	5,229	1,399	1,937	4,227
30年3月からの増減数	-349	-145	-29	-69	-106
31年4月の増減数	-45	-20	-6	+1	-20

(2019年5月の新聞記事より)

未来への教訓

復興！大津波の記憶を風化させない

平成31年(2019年)

1月の出来事

～地元報道より～

南三陸町

◆ベイサイドアリーナ駐車場で、南三陸町消防団と交通指導隊の出初め式が行われた。町民の安全を守るために、今年も団結していくことを誓った。

◆南三陸町は7日、地域おこし協力隊に新たに1人を任命した。山形県出身の佐々木道彦さん(45)で、町内で11人目の隊員となった。

◆被災地支援で徳島県から南三陸町に贈られた移動図書館が、7日から運行を始めた。2代目の「たんぼぼ号」として運行を開始し、アニメキャラクターが描かれた車で災害公営住宅を回り、楽しみに待つ町民に本を届けた。

◆6日三陸道(南三陸海岸IC～歌津IC間)下り線で、午後5時27分頃清水トンネル内で、11トントラックの一部が損傷する火事があった。火災によって午後9時までの間、上下線で通行止めとなった。

◆南三陸町は今秋完成を目指す「祈りの丘」は、犠牲者を追悼・慰霊する場所となり、名簿を安置する。名簿を作成するため、氏名などの記載に同意するかどうか遺族にも意向確認を行なっている。

◆志津川魚市場が県内で初めて、一般社団法人大日本水産会「優良衛生品質管理市場・漁港認定」を受けたが、認定後最初の更新時期を迎えた。認定の有効期限は1年、その後は3年となる。

◆南三陸商工会は16日から「創業塾」を開講する。町内で創業を予定している人や、創業からおおむね5年以内の人が対象。

◆自慢のカキとタラにちなんだメニューを提供

する「冬の美味しいカキを味わっタラキャンペーン」を南三陸商工会が11日から始めた。町内16店舗が参加し、期間は2月20日まで。

◆南三陸町で13日、平成最後となる成人式が行われた。新成人153人のうち136人が出席した。新成人の誓いの言葉、成人の抱負が発表され、記念講演はエッセイストでタレントの小島慶子さんが講演した。

◆受験シーズンを前に、南三陸町入谷のYES工房で「ゆめ多幸鎮オクトパス君」の受注がピークを迎えている。2月中旬ごろまでが最も忙しい時期。

◆南三陸町歌津の寄木地区に伝わる小正月行事「ささよ」が、15日行なわれた。ささよは、約250年前の江戸時代から続く町の無形民俗文化財。今年は小学校2年生から中学1年生までの4人が、厳寒の中法被姿で46軒を回った。

◆東日本大震災で被災した南三陸町と気仙沼市の老舗かまぼこ店2社の若手経営者が新会社を立ち上げた。新商品は、これまでむずかしいとされてきた常温での保存を可能にした「かまぼこ」。

◆防災集団移転団地の空き区画について、常時申込みを受け付けることに変更した。被災者以外の世帯にも広く呼び掛け、今後は先着順で申し込みを受けるため、決定まで期間が短く、住宅建設を進めやすくなる。

◆南三陸の海のビジターセンターによる「みちのく潮風トレイルパトロール in 入谷」が、「校舎の宿さんさん館」周辺で26日午前9時から開かれた。入谷集落を通るコースを歩き、巨石や巨木など見どころの多い入谷の魅力にふれる。

◆20日志津川仮設魚市場で志津川湾寒鰯・牡蠣まつり福興市が開かれた。13店舗のブースでは白子のてんぷらやタラのフライなどが人気だった。タラ汁、カキ汁なども来場者の冷えた体を温めた。

◆東日本大震災で被災して再建された南三陸町

役場本庁舎が、日本ファシリティマネジメント大賞の特別賞に選ばれた。再建された役場本庁舎は、従来の行政機能に加え、町民の交流や憩いの場となる「マチドマ」を設けた点を評価された。

◆南三陸町の南三陸ホテル観洋で、夜空を楽しんでもらう「スターパーティ in 南三陸」と題した観察会が、2017年1月からスタートしている。2カ月に1度のペースで開催しているが、今後は月1回のペースで開催される。天文ボランティアが開設してくれる。

◆東北電力女川原発での事故発生を想定した原子力防災訓練が、24日行なわれた。小学校や保育所の屋内退避、災害対策本部の運営訓練を展開し、万一の事故への対応を確認した。

◆23～26日まで台北市立金華小学校の児童や教職員ら34人が、町を訪れた。25日は名足小学校で全校児童48人と交流。一行は志津川小学校や南三陸さんさん商店街を訪問したほか、台湾からの支援で再建された南三陸病院にも足を運んだ。

◆東日本大震災の海岸の環境について考える「海辺のセミナー～7年目のいまだから、私たちの海辺を考えたい」が、南三陸町戸倉の南三陸・海のビジターセンターで27日開かれた。岩手県立大学の島田直明准教授が、砂浜の海浜植物と防潮堤建設との関係などについて解説した。南三陸町をはじめ、気仙沼市や石巻市などから約30人が参加した。

◆南三陸歌津の合同会社(でんでんむしカンパニー)が、染め物などに使われる「藍」を乾燥させたお茶を商品化し、「あい茶」のネーミングで昨年12月以降、町観光協会アンテナショップなど町内2カ所で、売り出している。

◆南三陸町の八幡川・水尻川で行なわれた今シーズンのサケ捕獲作業は、昨シーズンの3倍となる親魚を確保して終了した。同町では、2015年小森ふ化場が復旧。ふ化した稚魚の育成は順調で、河川への放流は例年通り2月中旬に始める予定。